

MIDORI SAKURAI





マゴキ・アッタリ [Magoki-Attori]

マゴキとは「穴の中」の意味で1936年まで土中に埋もれていたモスク。



櫻井みどりは歴史的建造物に対してのビデオ投影を主な手法とする、フランス在住の現代美術作家です。

今回の展覧会、タシケンターレにおいて、櫻井はふたつのビデオインスタレーション(タシケント市およびブハラ市)と、またタシケント市では、ビデオインスタレーションに付随する写真作品を発表しました。

上の写真マゴキ・アッタリは、ブハラ市でも二番目に古いモスクで、今回のブハラプロジェクトでのビデオイメージ投影対象の建築物となりました。



<O'z>
 ウズベキスタンの建築からインスピレーション
 を得た東西をつなぐ門をテーマにしたサイトス
 ペシフィック・ビデオ・インスタレーション

一説によるとウズベキスタンの語源はO'z(自分
 自身)とBek(覇者)からきていると言われていま
 す。
 シルクロードの昔から、もしかしたらそれよりも
 もっと古くから、ウズベキスタンは東西をつなぐ
 扉として重要な役割を果たしてきました。
 扉とは出入りする場所。内と外を隔てるもの。内
 と外とは多くの事柄の象徴です。たとえば、自分
 と他人、精神と物質、過去と未来などなど。



<O'z>の基礎となっている画像はウズベキ
 スタンの建築のそこそこに見られるアーチ型の
 扉です。そこを私の体が東から西へ、西から東
 へと通り過ぎるのです。

<Magoki-Attori, Boukhara>
 <ブハラ市 マゴキ・アッタリ>

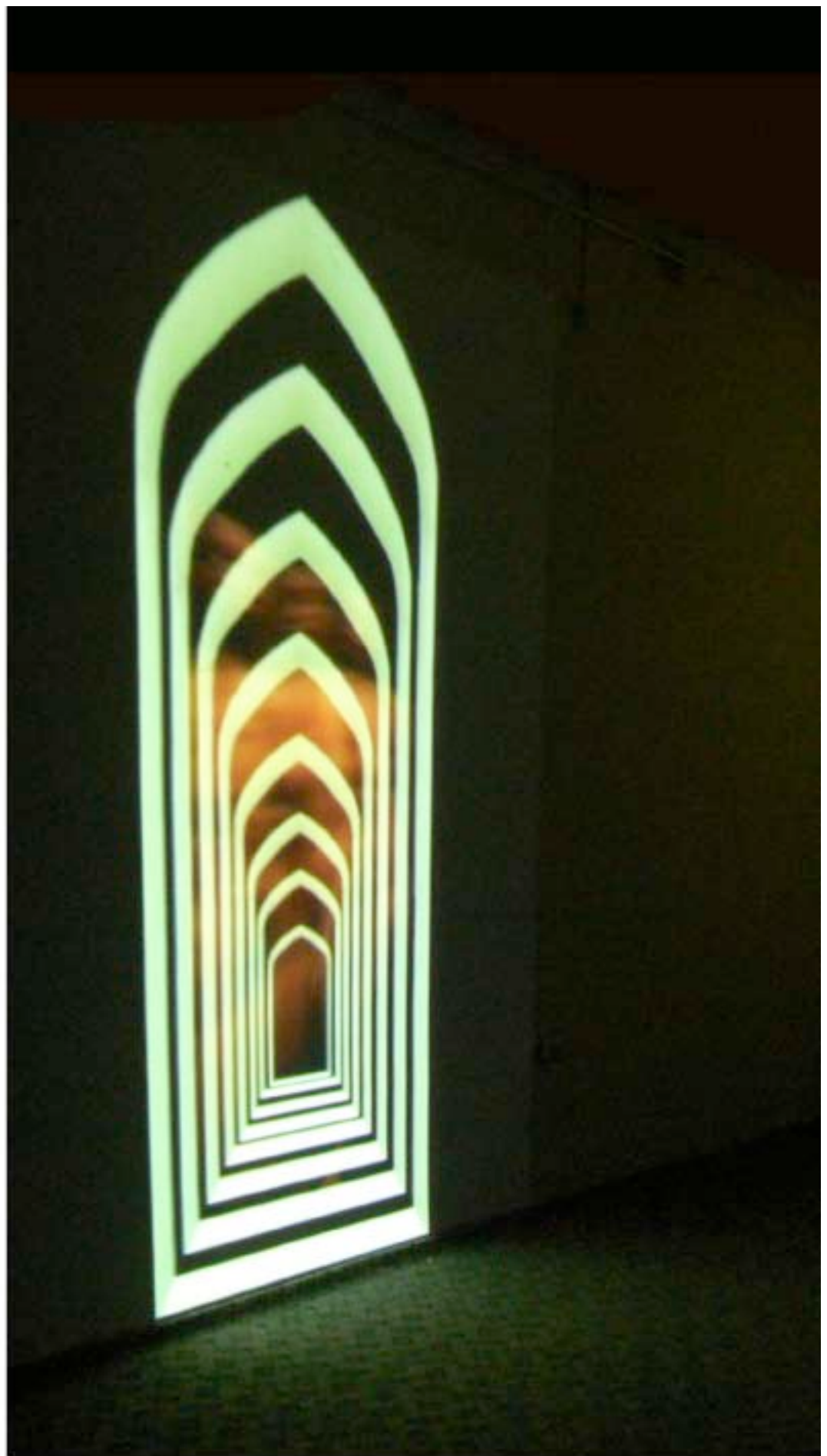


<目細工>
写真 & フォト・インスタレーション

ウズベキスタンの典型的なモザイクを青い目と黒い目で再構成。これもまた東西出会いの象徴です。

<International Caravansarai of Culture, Tashkent>
<タシケント市 平山都夫 文化キャラバンサライ>





<O'z / Mo'z >

site-specific installation with video on the theme of the door between east and west through the character of Uzbekistan's architecture. An etymological argument states that the name means independent or the lord itself, from O'z (self) and Bek (a noble title of leadership). Since the age of The Silk Road or further back, Uzbekistan plays an important role for connecting both side of the door. It means East and West. The door works to come in and to go out, to separate or to join inside and outside. Inside and outside can symbolise a lot of things, let's say himself and others, spiritual life and material life, the past and the future...etc.



写真左:<O'z> 基礎となっている画像はウズベキスタンの建築のそこそこに見られるアーチ型の扉です。
そこを私の体が東から西へ、西から東へと通り過ぎるのです。
写真上:<Mo'z> 万華鏡を通して動く私の体が、あたかもモザイクの細胞分裂のように増幅していきます。

音の玉手箱:-交響詩- 中央アジアの草原にて-のバリエーション、アレクサンドル・ボロディン